

# 1. 評価報告概要表

作成日平成 22年1月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070800329
法人名	社会福祉法人恵の園
事業所名	グループホームさつき
所在地	渋川市渋川3646-4 (電話) 0279-22-1952

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年1月15日

## 【情報提供票より】(平成21年12月8日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人 非常勤 0人 常勤換算 7.9人

### (2)建物概要

建物構造	コンクリートブロック造り		
	2階建ての	1階	～ 1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	33,000～35,400 円	その他の経費(月額)	水熱水費400円(日額)・冷暖房費200円(日額)・電	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
又は1日 950円(おやつ代含む)				

### (4)利用者の概要(12月8日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	74歳	最高	95歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	北毛病院・西群馬病院・有馬クリニック・榛名病院等
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

障害者施設として長い歴史をもつ法人に誕生したホームである。伊香保温泉に向かう道中にあり、ホームから見える山々などの景色は絶景であり法人内の庭園の桜も歴史を感じる大木であり、花見の時期には利用者も職員と共に楽しんでいる。利用者には母体施設から異動してきた方もいて、職員とは馴染みの関係の延長線で生活ができる環境にある。法人がもつ教育システムも充実している。利用者が楽しく明るい日々を過ごすことができるよう、利用者が望む生活・介護に対して柔軟に対応している。入浴は入りたいときに入浴ができる体制があり体調や体力、意向に沿う支援を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果は、何度も読み返し職員とホーム長とで話し合い、現在のホームでできる方法策として検討に取り組み、毎月会議を行うと共に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票の作成は、昨年度の評価をベースにホーム長が中心となり職員に意見を求めて作り上げた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2～3ヶ月に1回開催している。会議には利用者の生活の様子や報告や事業計画を報告し、協力を得る関係を築いている。家族の方から提案のあった、防災の意見では、ガスレンジ使用からより安全な生活支援に向けてIH電化に変更するなど取り組みの実行が行われた。また、市、社会福祉協議会の担当者からアドバイスや講義の紹介を得る機会があり、日常的な介護に活用している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>機関紙を年4回発行して利用者の生活状況をスナップに収めたものを載せたり、ホームの内容を紹介している。家族事情を優先し、面会の少ない場合は電話や郵便で報告している。特別の苦情や発信を今まで受けたことはないが、意見や苦情が言いやすいようにするために、機関紙等にも苦情相談窓口を繰り返し掲載することに期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム独自の催しの機会を計画し、地域の老人会や近隣施設、病院へ案内をして交流を図り取り組んでいる。また、地域の文化祭や納涼祭に職員と利用者で参加して楽しい時間を過ごしている。法人が行う事業にも参加ができるので有効な連携ができる。市で行うクラブ活動の公募に応募し利用者の手芸作品も出品している。地域サービスデーには利用者と職員で清掃活動(草むしり)に常時参加して交流を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念・方針を作成しているが、地域密着型サービスとしての特徴を踏まえた理念・方針としては、今後の職員会議で話し合い、検討していきたいと考えている。	<input type="radio"/>	法人の理念を踏まえつつ、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念・方針を明確化されることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや職員会議のときを活用して周知を図っている。法人の理念は共有されているが、事業所独自の理念・方針についても周知できるよう取り組んでいる。	<input type="radio"/>	事業所独自の理念・方針についてもさらに共有できるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会、地区の文化祭や納涼祭に参加している。市で開催しているクラブ活動の作品展に利用者の作成した手芸等を出品できるように支援している。地域サービスデーには職員と利用者が清掃活動(草むしり)に参加し交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価票を配布して説明し、現状の把握を職員で話し合い、利用者の方々へ反映できるように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回は実施に向けて開催し、利用者の様子を報告しホームの問題等を相談している。具体例としては、防災の内容では家族からの意見を実行して、ガスレンジからIH電化レンジに変更するなど安全な取り組みを行っている。	<input type="radio"/>	概ね2ヶ月に1回以上は開催されるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口で直接出向いて、顔を合わせて交流を図っている。市で行われる催し物や講演等の紹介を得て、作品展に入居者の作品の出品も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年4回発行する、機関紙に利用者の生活状況を伝えている。利用者の金銭管理を代行しているので、利用者ごとの小口現金出納帳を作成し面会時に説明報告をして確認印を受領している。緊急時には電話で報告・連絡・相談している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内及び外部の苦情担当窓口を重要事項説明書に明記し、ホーム内に掲示しているが、実際には苦情相談がない。	○	苦情相談窓口をさらに分かりやすくするため、機関紙に記載するなど繰り返し家族に伝えていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動には引継ぎ書を作成して、1週間の引継ぎ期間を設けている。もともといる職員もカバーし、馴染みの関係がつかれるように努力して、利用者には不安な日がないようにと職員全員で取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人材育成係を設けて取り組むことができるシステムがある。地域や地域密着型サービス連絡協議会の研修に、希望を取り入れて参加できるようになっている。各職員が受けた研修は事業所に持ち帰り報告し、ケアプランへ反映できるように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会や同業者間で行う研修会に職員が参加し交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談があると事前の家庭訪問をして、利用者の大切にしてきたものを把握し、事業所に持ち込む家具や生活備品等を家族や利用者と相談し、入居後安心して生活が送れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所の庭に囲いを作ってミニ農園を作り、利用者の方と一緒に畑を耕し、野菜を育てている。収穫できた野菜は、経験豊富で料理の得意な利用者から調理法を教えていただき、みんなで漬物を作っている。出来上がった漬物は、食卓に並べいただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き、介護計画に反映させ、支援を実施している。困難な場合は、ケアカンファレンスや職員会議等で検討し、本人本位となるよう考慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意見、主治医からの情報等を把握した上で、担当の介護職員がアセスメントを行い、定期的なケアカンファレンスや職員会議等を通じて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに計画の見直しを行い、それ以外に見直しの必要が生じた際は、「変更書・追加項目」という書式を作成し、従来の介護計画を補っている。実際に丁寧な個別介護が行われているが、その内容は、計画書、変更書、追加項目に記載されていないものが多い。	○	行っているすべての個別介護について、計画書、変更書、追加項目に記載するように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人に機械浴槽や大型バスがあり、入浴介助支援や外出支援に活用している。また、敷地内には売店やパン店舗もあり、利用者は一人でも安心して買い物ができる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には法人の協力医療機関を案内しているが、本人や家族の希望がある場合にはその他の医療機関で継続した医療が受けられるよう、原則、職員送迎にて受診の介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際の対応の指針書(文章化)を作成し、入居時に利用者、家族へ説明し、方針の共有を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、日々の生活や介護の場面で、言葉や接遇においてプライバシーの保護には注意を払い接するよう指導を受けている。記録類はパソコン内に保管し、個人情報の保護に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にはそれぞれ観葉植物や自宅から持ってきた暖簾や写真等を飾ったり、植物を大切に育てて眺めて楽しんでいる方もいる。一人で敷地内の売店やパン屋へ買い物に出かけられる支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に手伝ってもらい、皮むきや味付けなど得意なところをしていただいている。事業所の畑で採れた野菜等を使った料理が食卓には並んだり、クッキングクラブを開催したり、ハンバーグづくりをしたり、楽しい食事の支援に取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回午後入浴支援を行っているが、朝または夜に入浴を希望する利用者には希望する時間に入っていたく支援も行い、快適に過ごしていただけるよう努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所内には花の管理が得意な人、農作業が得意な人、手芸、調理が得意な人がいて、日常的に役割等が活かせる日々を過ごしている。また、日帰り旅行や買い物へ渋川まで出かけたり、事業所で定期的に行われる行事にも得意なことを活かして参加をしていただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	隣接する法人内の売店やパン屋までの散歩を兼ねた外出が日常的に行われている。希望があれば、美容院や近くにあるコンビニエンスストア等への外出支援を行っている。また、月1回は個別支援計画も立てて実施している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は開放されていて、利用者の方が自由に戸外へ出かけることもある。事務所が玄関脇にあり、利用者が外出するには目が届き把握ができるようになっていて、声かけや見守りを行い安全に配慮がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。夜間想定火災訓練も行っている。近隣の施設、病院、地域の自警団の協力体制整備があり、継続的に行われている。簡易スプリンクラー、玄関脇にある事務所には防災器具も設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、栄養士等のアドバイスも受けて提供している。食事摂取量については記録されているが、水分摂取量については記録されていない。	○	一日の水分摂取量が把握できるよう記録していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・トイレや食堂等には、観葉植物が飾られている。食堂では水槽で熱帯魚を飼育している。日ごろから利用者の方と一緒に話し合っ、共用場所の配置等も工夫して生活している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や趣味のものが持ち込まれて、利用者の方々がすすんで整理整頓し居心地の良い居室で生活している。		